

第 113 回 日本精神神経学会学術総会

医療法人水明会佐潟荘 医局

第 113 回 日本精神神経学会学術総会が 2017 年 6 月 22 日～24 日名古屋国際会議場で行われました。総会のテーマは「精神医学研究・教育と精神医療を繋ぐ—双方向の対話—」です。統合失調症、うつ病、自閉症スペクトラム症、摂食障害、認知症などの最新情報から現状についてまでのシンポジウムが設けられました。

政府は 2017 年 2 月 28 日に精神保健福祉法改正案を国会に上程しました。2016 年の津久井やまゆり園での殺傷事件は社会にも精神医療にも強い衝撃を与えました。本学会でも排外主義や自発的入院と非自発的入院、人権を守ること治療の在り方についての討論も行われました。

発達障害のシンポジウムにはたくさんの参加があり関心の高さが窺われました。ADHD について DSM-5（精神障害の診断と統計マニュアル 米国精神医学会）では小児期からの連続性が示されていますがニュージーランド、イギリス、ブラジルの 3 か国から長期コフォート研究の結果、成人の ADHD と小児期の ADHD は同一疾患と捉えられるかどうかという疑問があるとの報告の紹介と両者の不連続性についての肯定的研究の発表がありました。